

企業の CSR 活動を  
応援します！

# 企業 × ふくし

## ～企業向け出前福祉講座プログラム集～



## はじめに

茅野市社会福祉協議会では、誰もが支え合いながら安心して暮らすことのできる「ともに生きる豊かな地域社会」の実現を目指して、地域住民等との連携・協働により、地域福祉の推進に努めています。

「福祉」という言葉から、高齢の方や障害のある方など日常生活に課題を抱えた人のものと連想する方が多いかもしれません。

わたしたちは、「福祉」を説明するときに、「ふくし=ふだんの 暮らしの しあわせ」とお伝えしています。「ふくし」は、誰もが、幸せに暮らせるよう思いやりの心を持って支えあうことを意味しています。

福祉の考え方は、「高齢の方や障害のある方など困っている人に配慮する、助ける」ことから「自分を含め、すべての人が住み慣れた地域で安心して幸せに暮らす」というより広い意味に変化しています。

茅野市には、子どもから高齢者、障害のある方、外国籍の方などさまざまな方が暮らしています。住み慣れた地域で暮らし続けることができるためには、一部の福祉関係の専門機関だけでなく、ボランティア活動やまちづくりに取り組む市民の方々、保健・医療、住宅、建設、商工業に携わるさまざまな企業、専門家、団体の方々など、多くの人の協力が必要です。

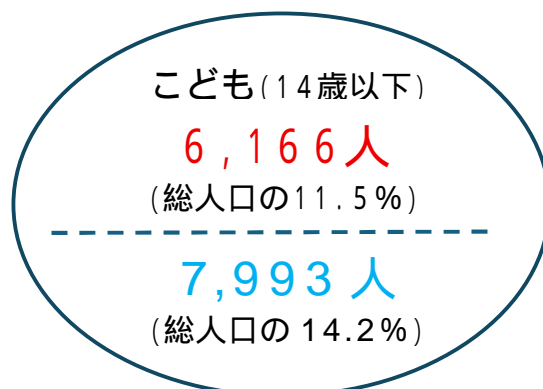
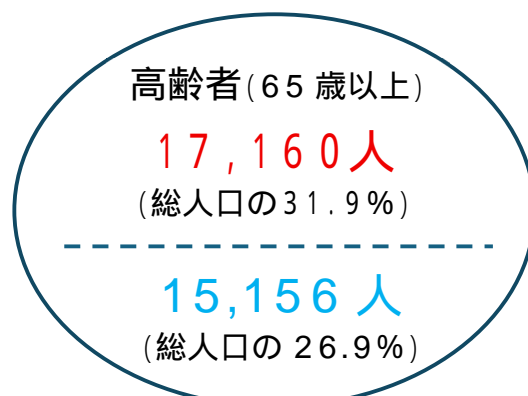
茅野市社会福祉協議会では、企業における社内研修の一環として、「ふくし教育」を推進しています。「ふくし教育」を通して、企業として地域貢献活動への取組を考えるきっかけとなり、誰もが支え合いながら安心して暮らすことのできる地域を全ての企業の皆様とともに考え、「ふくし教育」の実践に取り組んでいただくことを期待しています。

令和7年7月  
社会福祉法人 茅野市社会福祉協議会  
ボランティアまちづくりセンター

## 目 次

1	茅野市の現状	1
2	ふくし教育とは	2
3	実践プログラム開催までの流れ	6
4	ふくし教育の実践プログラム	7
5	資料	
	・【企業×ふくし】 みんなでつくる「ふくし」チラシ	15
	・福祉用具・レクリエーション用具の貸出について	17
	・茅野市社協「法人賛助会員」加入のお願い	20

# 1 茅野市の現状



上段:令和7年(2025)4月現在(住民基本台帳より)  
下段:平成26年(2014)4月(住民基本台帳より)

少子高齢化や核家族化の進行、人間関係の希薄化、新型コロナウイルス感染症の影響による生活様式や働き方の変化等に伴って地域社会は大きく変容しました。さらに、経済情勢や雇用環境の厳しさの長期化も相まって、社会的孤立の問題、経済的困窮や低所得の問題、権利擁護の問題など、生活課題が絡み合って「複雑化」し、また、個人や世帯において複数の分野にまたがる課題を抱えるなど「複合化」しています。

これらの社会構造の変化などを背景として、地域・家庭・職場といった生活のさまざまな場において、支え合いの基盤が弱まってきています。暮らしにおける人と人とのつながりが弱まるなかで孤立し、生活に困難を抱えながらも誰にも相談できない、あるいは、適切な支援に結びつかないことなどにより、課題が深刻化しているケースが増えています。

その一方で、地域の中では、見守り活動や居場所づくりなど長年積み重ねてこられた活動や「お互いさま」の支え合いがあり、人と人をつなぐ地域づくりにつながっています。

## 2 ふくし教育とは



### (1) 「ふくし」とは

茅野市社会福祉協議会では、「福祉」という言葉を説明するときに

**ふ**だんの **く**らしの **し**あわせ と伝えています。

ひらがなの「ふくし」には、「茅野市に暮らす みなさん一人ひとりの普段の暮らしが幸せであるように」という意味があります。

幸せの定義は、一人ひとり違います。自分の幸せに加え、周りの人の幸せも大切にすることが「ともに生きる豊かな地域社会」の実現につながっていきます。

### (2) 「ふくし教育」とは

学校や地域、企業で「ふくし」の学びを深めていただくため、茅野市社協では「ふくし教育」の取組を推進しています。「ふくし教育」は、「共に生きる力を育む」ための学びであり、子どもから大人まで、地域に暮らす全世代を対象としています。

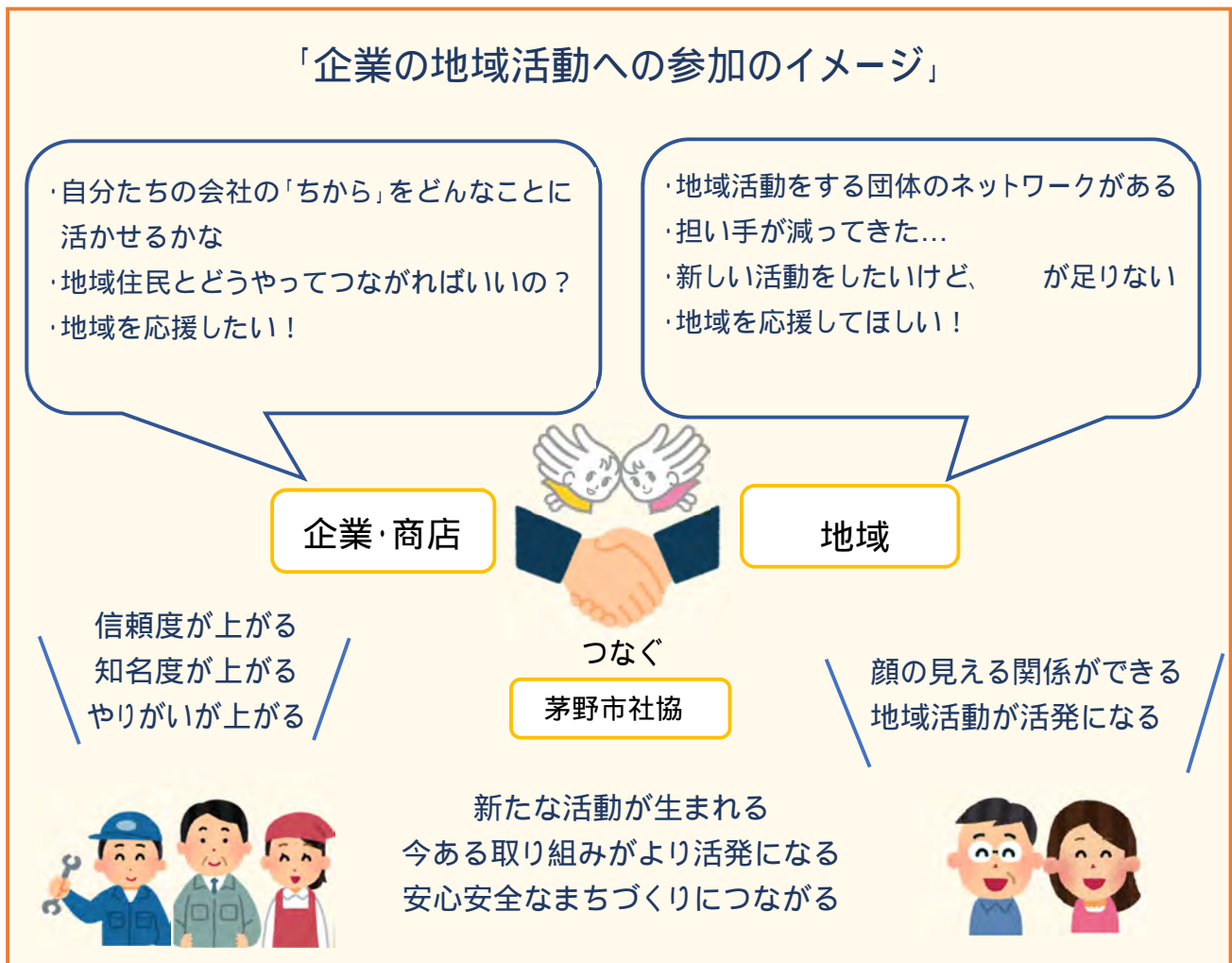
ふくし教育では、みんなの「ふだんの くらしが しあわせ」であるように、「地域で暮らすさまざまな人との出会い・体験など」を通して、「自分たちにできることを考え」「行動していく力をつける」ことを目的にしています。一人ひとり、どんなことができるのかを考え、そこに暮らすすべての人が暮らしやすい地域にしていくことを目指しています。

そのための活動は、社協だけではできません。市民の皆さん、行政などさまざまな団体と協力しながら福祉活動や事業を行っています。

### (3) 企業が「ふくし教育」に取り組む意義

地域では、住民の暮らしを支えるためのさまざまな活動が行われています。一方で、担い手の固定化や減少も見られ、地域の課題に対応することが難しくなっています。

このような中で、企業の「ちから」は、地域にとって、とても心強いものです。社協では、「地域とともに何かしたい」「地域のために役に立ちたい」と思っていただける企業の相談に応じ、地域活動への参加をいっしょに考えていきます。



企業にとってもこんな効果が期待できます！

- ・ 地域みなさんと顔の見える関係ができ、地域との信頼関係ができます
- ・ 地域のニーズを知ることができます
- ・ 社会的に信頼を得ることができ、企業の知名度も高まります
- ・ 地域貢献を通して感じた喜びややりがいで、企業の活性化や従業員のモチベーションアップにつながります

## (4) SDGsへの取組

国際的には豊かで活力ある未来を創る「持続可能な開発目標(SDGs)」が示され、「誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会」の実現に向けて取組が進められています。わが国においても SDGs の実現に向けて、官民ともに取り組んでいます。

例えば、SDGs の目標 1 の「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる」は、地域のなかの生活困窮者や貧困世帯の子ども等への支援に重なります。

ふくし教育への取組は、福祉の理解を深めることに加え、SDGs の「誰一人取り残さない社会」の実現は、社会保障・社会福祉がこれまで進めてきた歩みや「ともに生きる豊かな地域社会」の実現に向けて大きな意義があります。

ふくし教育を通して、幸せな未来の実現に向けて、どんなことができそうかいっしょに考えてみませんか。

### ～ 企業としてできる福祉的な取組の例と SDGs の関連 ～

#### 支え合いの地域づくりを目指す活動

< SDGs との関連性 >

- ・ 専門性を活かして一人暮らし高齢者の設備や備品の修理・点検のお手伝い
- ・ こども食堂など地域の居場所づくりのお手伝い
- ・ 障害のある方の作業所などが出店できる場所や機会の提供
- ・ 社員に NPO やボランティアの活動の情報提供



# 安心安全な支え合いのまちづくりを目指す活動

<SDGsとの関連性>

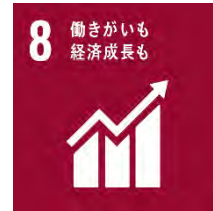
- ・ 企業の強みを活かした災害への備え
- ・ 地域の防災活動のお手伝い
- ・ 会社の周りの清掃活動や見守り活動



# 働く人の困りごとを受け止め、働きやすい環境づくりを目指す活動

<SDGsとの関連性>

- ・ 障害についての学びを深め、障害のある方が働きやすい環境づくり
- ・ 認知症についての学びを深め、家族を介護する従業員が働きやすい環境づくり



## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



茅野市社会福祉協議会はSDGs(持続可能な開発目標)を支援しています。

# 3 実践プログラム 開催までの流れ



## 申込み

- ・ 「ふくし教育の実践プログラム」を参考に、内容をご検討ください。
- ・ お申込みの際には、「研修時間」「参加社員数」もお知らせください。

### 社会福祉協議会がお手伝いできること

- ・ ふくし教育プログラムの相談・提案
- ・ 講師や協力団体の調整
- ・ 福祉用具(車いす・アイマスクなど)の準備・貸出



### 申込み・問合せ

茅野市社会福祉協議会 ボランティアまちづくりセンター

電話:0266-73-4431

メール:support@sharara.or.jp

## 打合せ

- ・ ご担当の方に企業の特徴等や「学びたい内容」をお聞きし、内容を検討します。
- ・ 備品や教材等の貸出も行っています。

## 開催日

- ・ 計画を基に、プログラムを実施します。
- ・ 許可をいただけるようでしたら、新聞社に取材をお願いします。

## ふりかえり

- ・ 今後の参考にさせていただくため、アンケートにご協力ください。
- ・ 取り組んでいただいた内容は、「茅野市社会福祉協議会広報紙やらざあ」やホームページ、新聞報道にて、情報発信させていただきます。

### 【費用】 無料

社協が実施する講座は費用はかかりません。

研修内容によっては、講師謝礼などの費用がかかる場合があります。

### 【お願い】

- ・ 開催予定日の1ヶ月前までにご連絡ください。また、希望される開催日にお受けできない場合もありますので、予備日をご検討ください。

# 4 ふくし教育の 実践プログラム



ふくし教育を依頼していただく際の参考に、いくつかプログラムをご紹介します。  
掲載のない内容につきましても、ご希望がありましたら、ご相談ください。

- 1 地域の支え合い活動を知ろう
- 2 ボランティア活動を始めよう
- 3 高齢者について知ろう
  - (1) 認知症について知ろう
  - (2) 介護について知ろう
- 4 障害について知ろう
- 5 ユニバーサルデザインを知ろう
- 6 災害への備えについて知ろう



## プログラム1

# 地域の支え合い活動を知ろう

### ねらい

地域で行われている福祉活動を知り、その中での役割を考え、地域貢献につながる実践を考えます

### こんな効果が期待できます！

- ・ 地域の支え合い活動を知り、企業の得意分野を活かした地域貢献活動につなげることで地域内での信頼関係の構築につながります
- ・ 地域とつながりを持つことにより、地域との協働やその地域らしい事業への発展が期待できます

## プログラム例

時間(90分)	内容
0～10 【10分】	導入 ・プログラムの流れや内容説明
10～40 【30分】	講話 ・茅野市の福祉の動向 ・地域の支え合い活動について
40～70 【30分】	身近な地域の支え合いについて考える
70～90 【20分】	ふりかえり ・考えた内容を共有する ・これからどんなことができそうか、考える
実施後の展開	・企業で地域のボランティア活動に参加することで地域貢献につながる ・企業の特性を活かした地域向けの講座を行うことで地域住民とのつながりを持つことができる



地域では、一人暮らしの高齢者への声かけ、いきいきサロン、地域の居場所づくり、子どもたちの登下校の見守り、ゴミ出しのお手伝いなどさまざまな活動が行われています。



地域の支え合い活動者からお話を聞くこともできます。

## プログラム2

# ボランティア活動を始めよう

### ねらい

ボランティア活動に関する講座と体験活動を通して、ボランティア活動への関心や参加意欲を高め、働く世代の人たちの参加のきっかけづくりを行います

### こんな効果が期待できます！

- ・ ボランティア活動を行うことによって、幅広い世代とのコミュニケーション力が向上し、業務に活かすことができます
- ・ 身近なボランティア活動から企業主体のボランティア活動など、ボランティア活動の発展が期待できます

## プログラム例

時間(60分)	内容
0～5 【5分】	導入 ・プログラムの流れや内容説明
5～25 【20分】	講話 ・ボランティア活動とは ・ボランティア活動の事例
25～45 【20分】	
45～60 【15分】	ふりかえり ・これからどんなことができそうか、考える
実施後の展開	・地域で行われているボランティア活動に参加する ・企業の有志によるボランティア活動が立ち上がる

ボランティア活動への参加の機会があることは、リフレッシュにつながるかもしれません。

## プログラム3 - (1)

# 認知症について知ろう

### ねらい

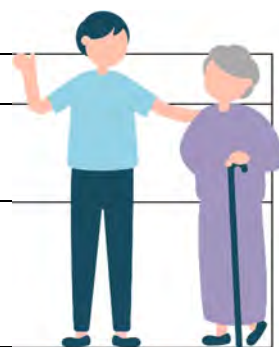
認知症についての正しい知識を持ち、職場や地域において認知症の方やその家族への支援のあり方について理解を深めます

### こんな効果が期待できます！

- ・ 接客や営業で認知症の方の対応をする際に、落ち着いて対応することができます
- ・ 認知症の理解を通し、支え合いや地域福祉の意識を高めることができます

## プログラム例

時間(90分)	内容
0～10 【10分】	導入 ・プログラムの流れや内容説明
10～40 【30分】	講話 ・認知症についての知識や支援について ・活用できる支援について
40～70 【30分】	認知症の方との関わり方について学ぶ ・声のかけ方やお手伝いの方法について
70～90 【20分】	ふりかえり ・これからどんなことができそうか、考える
実施後の展開	・窓口業務等の接客での対応に活かすことができる ・認知症について関係機関や地域と連携しながら取り組んでいく



認知症を理解し、見守りやサポートする応援者を養成する講座「認知症サポーター養成講座」に取り組む企業もあります。ご希望される企業には、講師をご紹介します。

高齢者や認知症への理解を深めることは、介護離職を減らすことにもつながります。

## プログラム3 - (2)

# 介護について知ろう

### ねらい

介護に関する知識や技術を学び、家族の介護等に役立てるとともに、仕事と家庭の両立のためのきっかけづくりを目指します

### こんな効果が期待できます！

- ・ 介護に関する学びの機会を通じて、家族の介護が必要になった際の負担軽減につながります
- ・ 接客時の手助けや相談に活かすことができます
- ・ 職場全体の介護に関する理解が深まり、仕事と介護を両立しながら働くことができる環境づくりができます

### プログラム例

時間(90分)	内容
0～10 【10分】	導入 ・プログラムの流れや内容説明
10～40 【30分】	講話 ・介護とは ・介護保険制度やサービスについて ・社会福祉協議会の事業について
40～70 【30分】	体験 ・高齢者の体の変化を体験する ・接客時などでのちょっとした手助けを学ぶ
70～90 【20分】	ふりかえり ・これからどんなことができそうか、考える
実施後の展開	・地域で行われているボランティア活動に参加する ・企業の有志によるボランティア活動が立ち上がる



介護休暇への理解が広がり、働きやすい職場環境になり、介護離職を減らすことにつながります。

## プログラム4

# 障害について知ろう

### ねらい

障害についての理解を深めることを通して、お互いに支え合うことの大切さを考えます

### こんな効果が期待できます！

- ・ 障害のある方の生活を理解することで、業務中や日常生活での接し方に役立てることができます
- ・ 障害について正しく理解することで、障害のある方の理解にもつながり、働きやすい環境づくりができます

### プログラム例

時間(90分)	内容
0～10 【10分】	導入 ・プログラムの流れや内容説明
10～30 【20分】	講話(例) ・障害についての理解と特徴など ・当事者による講話や交流
30～70 【40分】	体験 ・体験を通して、気づきを得たり、生活しやすい環境づくりを考える * ガイドヘルプ体験・車いす体験・手話体験など
70～90 【20分】	ふりかえり ・これからどんなことができそうか、考える
実施後の展開	・誰もが過ごしやすい環境づくりについて考える



「視覚障害のある方」「聴覚障害のある方」  
「車いすを利用されている方」に、講師としてお越しいただくこともできます。(講師謝礼などの費用がかかる場合があります)



障害への理解を深めることは、障害者の雇用にもつながり、それはSDGsに関連した取り組みでもあります。

## プログラム5

# ユニバーサルデザインを知ろう

### ねらい

ユニバーサルデザインを知ることで、誰もが利用しやすく、生活しやすい環境づくりに取り組みます

### こんな効果が期待できます！

- ・ 誰もが使いやすい商品開発のアイデアを提案することにつながります
- ・ 子ども、高齢者、障害のある方など、誰もが利用しやすい環境や社会づくりに取り組むことで、顧客満足度にもつながります

## プログラム例

時間(60分)	内容
0～5 【5分】	導入 ・プログラムの流れや内容説明
5～25 【20分】	講話 バリアフリーとユニバーサルデザインについて
25～45 【20分】	体験 ユニバーサルデザインの商品に触れてみる
45～60 【15分】	ふりかえり ・これからどんなことができそうか、考える
実施後の展開	・ 職場のユニバーサルデザインやバリアフリーについて話し合い、環境整備を考えることができる



## プログラム6

# 災害への備えについて知ろう

### ねらい

災害に備え何が必要か、災害が起きたときに、どのような行動ができるのかを考えます

### こんな効果が期待できます！

- ・ 企業としての平時～災害時～復旧・復興に向けた取組を具体的に検討することは、社員や家族の安全を守ることにつながります
- ・ 日頃から、地域とつながりをつくることで、企業への理解が深まり、いざというときに助け合える関係を築くことができます

## プログラム例

時間(90分)	内容
0～10 【10分】	導入 ・プログラムの流れや内容説明
10～30 【20分】	講話 ・過去の茅野市での災害から考える ・災害ボランティア活動から考える
30～70 【40分】	体験 ・「クロスロード」 1 を体験しよう ・「めぐろまき」 2 を体験しよう グループワーク ・災害への備えについて考える
70～90 【20分】	ふりかえり ・これからどんなことができそうか、考える
実施後の展開	・企業と地域が連携しての防災訓練を行う ・企業としてできる災害への備えについて考える



復旧・復興には、住民だけ、社協や行政だけでなく、企業の応援や連携が欠かせません。

### 1「クロスロード」

災害への備えをどうするか、地震が起こったらどう対応するかなど、決断の分かれ道に対して、自分ならどうするか考えるカードゲームです。

### 2「目黒巻(めぐろまき)」

発災から10秒後、1分後、5分後...といった時間経過に沿って、そのときの自分の行動をイメージするためのツールです。より具体的に防災をイメージすることができます。

# 5 資料

【企業×ふくし】チラシ

CSR  
(企業の社会的責任)  
として、どんな地域貢献が  
ができるのかな？

みんなで地域の  
福祉について考える機会を  
持ちたい

社内のできる  
ボランティア活動について  
考えたい

つながる、うまれる、ひろがる

# みんなでつくる 「ふくし」

あなたの職場や  
地域で「ふくし」を  
実現するために  
みなさんで考えて  
みませんか

茅野市社協では、「福祉」を「ふくし～**ふ**だんの**く**らしの**し**あわせ～」とお伝えしています。  
「福祉」と聞くと、高齢者や障害の方をイメージする人が多いかもしれません。「ふくし～**ふ**だんの**く**らしの**し**あわせ～」を考えることは、自分や周りの人の幸せを考えることでもあります。

## あなたの会社は、地域とつながっていますか？

地域では、住民の暮らしを支えるためのさまざまな活動が行われています。一方で、担い手の固定化や減少も見られ、活動の中で新たに見えてきた問題に対応することが難しくなっています。

そんな中で、企業の「ちから」は、地域にとって、とても心強いものです。社協では、「地域とともに何かしたい」「地域のために役に立ちたい」と思っただけの企業の相談に応じ、地域活動への参加をいっしょに考えていきます。

・自分たちの会社の「ちから」をどんなことに活かせるかな  
・地域住民とどうやってつながればいいのか？  
・地域を応援したい！



・地域活動をする団体のネットワークがある  
・担い手が減ってきた…  
・新しい活動をしたいけど、〇〇が足りない…  
・地域を応援してほしい！

企業・商店



地域

信頼度が上がる  
知名度が上がる  
やいがい上がる



新たな活動が生まれる  
今ある取り組みがより活発になる  
安心安全なまちづくりにつながる

顔の見える関係ができる  
地域活動が活発になる



裏面もご覧ください

# あなたの企業の「ちから」を、地域で活かしてみませんか

(他の地域で行われている地域貢献活動活動の一例をご紹介します)

## ★企業の特長や技術を活かした取組み

自動車の修理技術を活かして、福祉施設の「車いすの整備」

地域の子どもたちを育て見守りたい！  
企業が取り組む「子ども食堂」

人材・技術・知識  
建物(場所)・思い…  
どれも企業の「ちから」だね



企業の会議室や敷地をボランティア団体の行事などに貸出し

お蕎麦屋さんが開催！  
地域でみんなが楽しめる「そば打ち体験教室」

福祉作業所へ仕事の依頼  
「障害者の方がいきいきと働ける場づくり」

## ★災害支援に関する取組み

- ・ボランティア休暇を活用して、被災地の支援活動へ参加やプロボノ活動
- ＊職業上持っている知識やスキルを提供して社会貢献するボランティア活動

## ★環境美化に関する取組み

- ・会社まわりの清掃活動と併せて、小学生へあいさつ
- ＊ゆるやかな見守りにつながっています

## ★集める、寄付する取組み

- ・フードドライブへの協力
- ＊家庭で余っている食品を集めて、食品を必要としている地域の生活困窮者支援団体、子ども食堂等に寄付する活動
- ・赤い羽根共同募金への協力
- ・古切手、アルミ缶などを集めて寄贈



## 研修や交流活動等で、活用していただけます



### 疑似体験セット

- ・高齢者疑似体験セット
- ・視覚障害体験用サングラス



### 防災に関する備品

- ・HUG(避難所運営ゲーム)
- ＊勤務中に災害が起こったら？避難所の運営を体験し、災害時に想定される様々なできごとに対応するか、みんなで考えます
- ・JINRIKI
- ＊車いすに装着し、車いすの方をより安全に介助できるようにする器具。地域の防災訓練でもお使いいただけます



### パラスポーツ体験

- ・ゴールボール
- ・サウンドテーブルテニス
- ＊子どもから大人まで楽しみながら体験できます



### DVD(1本 約 30 分)

- ・「障害」「認知症」「車いす」などをテーマにしたもの
- ＊家族のケアをする方など、誰もが働きやすい職場づくりを考えるきっかけに！



茅野市塚原2-5-45 茅野市ひと・まちプラザ1階

茅野市社会福祉協議会 ボランティアまちづくりセンター (担当: 武澤・吉瀧)

電話: 0266-73-4431

メール: support@sharara.or.jp

＊企業での福祉的な活動は社協広報紙「やらざあ」で紹介させていただきます

# 福祉用具・レクリエーション用具の貸出について



茅野市社協では、市内の学校や市内で活動する団体、企業等へ福祉の学びのための備品やレクリエーション用具等を貸出します。

下記の備品以外にもお貸しできるものがありますので、お問い合わせください。

【費用】 無料

【利用手続き】 電話または社協窓口にて予約をお願いします。

※予約が重なる場合がありますので余裕を持って、予約をお願いします。

【お願い】 ・多くの方が利用するものです。ご利用の際に汚れてしまった場合は、簡単なお掃除をお願いします。

・貸出中に破損した場合は、弁償を求めることがあります。

1	 <p>高齢者疑似体験セット</p>	2	 <p>高齢者疑似体験セット (ゴーグル・耳栓)</p>
3	 <p>アイマスク</p>	4	 <p>白杖(折りたたみ式)</p>

5



点字器

6



点字の本

7



ユニバーサルデザイングッズ  
(誰もが使いやすく、わかりやすい  
デザインの商品です)

8



DVD(1本 約 30分)  
「視覚障害」「認知症」「車いす」  
などをテーマにしたものです)

9



ゴールボール  
(パラリンピックの種目になっている  
競技を体験できます)

10



サウンドテーブルテニス  
(ボールの中に鈴が入っていて、  
視覚障害の方もいっしょに楽しむこ  
とができます)

11



**JINRIKI**  
 (車いすに装着し、より安全に介助できるようにする器具です  
 防災訓練でもお使いいただけます)

12



**車いす**  
 (右:自走用・左:介助用)

13	点字ブロック (線状ブロック・点状ブロック)	各1セット	歩道や公共施設などにある点字ブロックの実物です
14	災害対応カードゲーム「クロスロード」	1セット	防災について考えるカードゲームです。様々な意見や価値観を参加者同士が共有することができます。
15	避難所運営ゲーム「HUG」	1セット	避難所運営者の立場になり、カードゲーム形式で、避難所の運営を疑似体験できます。
16	ワークショップによる 「ニーズと担い手の掘り起こし」キット	3セット	「助け・助けられる、支え合い」を体験するカードゲームです。 住民同士の助け合いの地域づくり、地域のニーズや担い手掘り起こしにご活用ください。
17	ルービックキューブ (ユニバーサルデザイン)	1個	色ごとに模様が付いていて、視覚障害の方もいっしょに楽しむことができるルービックキューブです。
18	「脳トレ大判かるた」 ～昭和の暮らしと行事～	2セット	読みやすく、探しやすい大きな札のカルタです。子どもからお年寄りまで、みなさんで楽しめます。
19	布ボール	約200個	ボールの中にビニール袋が入っています。ボランティアさんの手作りのボールです。
20	リズムボックス	1台	音響の機材です。

# 茅野市の地域福祉推進のため、 企業の皆様に「法人賛助会員」加入のお願い



私たち社会福祉協議会(社協)は「誰もが心豊かに安心して暮らせる支え合いのまち」を目指して、市民のみなさんと一緒に考え、地域福祉の推進のために様々な事業を行っています。

これらの事業を行うための財源として、市民のみなさんや企業の皆様からいただいたお金(賛助会費)を活用しています。

決して社協賛助会員への加入は強制ではありませんが、社協の活動にご理解いただき、茅野市の地域福祉推進のため、法人賛助会員への加入をお願いいたします。

## 社協賛助会員の会費は？

社協賛助会員の皆さまからの会費は、「地域福祉」を自らの活動として受け止め、地域福祉活動に間接的に参加していただいているという意味を持っています。

ご協力いただきました賛助会費は、茅野市の地域福祉活動に、100%還元されます。

## 社協賛助会員の種別と会費は？

世帯及び個人の方には『一般賛助会員』『特別賛助会員』として、**企業や事業所等の皆様には『法人賛助会員』として**、それぞれ会費(年額)をお願いしています。会費は1口以上、何口でも結構です。

一般賛助会員	1世帯	1,000円
特別賛助会員	1口	3,000円
法人賛助会員	1口	5,000円

※社協賛助会費は、所得税法第78条による「寄付金控除」または租税特別措置法第41条による「税額控除」を受けることができます。また、法人税法第37条により「損金算入」が認められます。

## 社協賛助会費の納入方法は？

- ◎『一般賛助会員会費』『特別賛助会員会費』は、区・自治会長さんを通じて市内全世帯にご協力をお願いしています。
- ◎『法人賛助会員会費』は、社会福祉関係機関、施設、商店、会社、企業、事業所、団体等の皆様に直接ご協力をお願いしています。

※法人賛助会員となつていただいた企業の皆様と社協とが連携し、社会貢献活動や地域福祉推進活動に取り組むことによって、地域と企業とのつながりづくりができればと考えています。そういったご相談も受け付けていますのでお気軽にご連絡ください。



社会福祉法人 茅野市社会福祉協議会

茅野市塚原二丁目5番45号 ひと・まちプラザ2階

TEL 0266-73-4431 (受付: 月~金 8:30 ~ 17:30) FAX 0266-73-8030

【E-mail】 [support@sharara.or.jp](mailto:support@sharara.or.jp)

【URL】 [https:// www.sharara.or.jp/](https://www.sharara.or.jp/)

## 社協賛助会費はどのような事業に使われていますか？ 一部を紹介します。



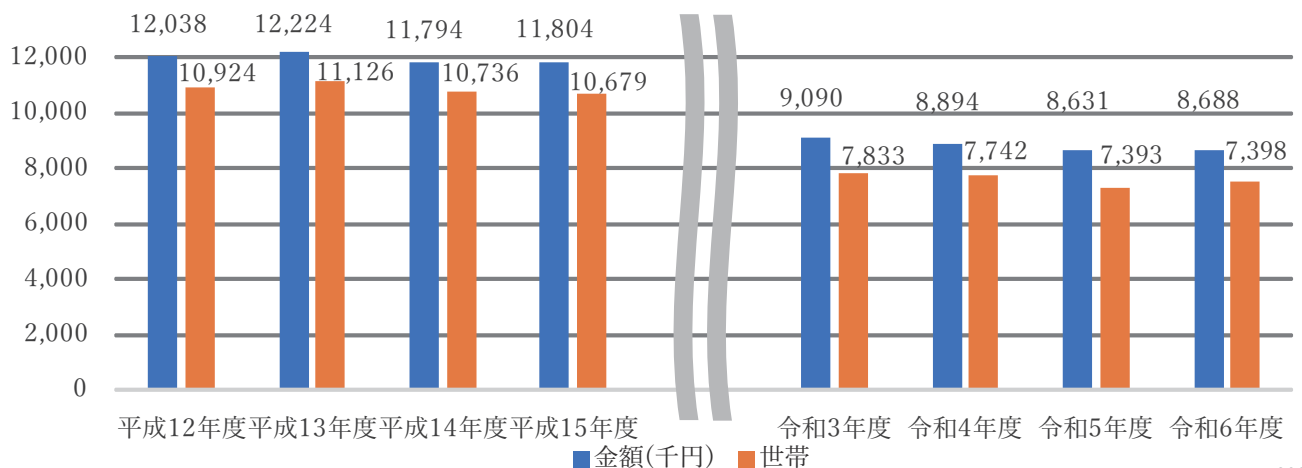
## 社協賛助会費をお願いする理由は？

茅野市社協は、市民のみなさんと協力しながら、「誰もが心豊かに安心して暮らせる支え合いのまち」を目指して活動しています。

その経費は、行政等からの受託金・補助金が大きな割合を占めていますが、複雑化している地域生活課題や社会的課題の解決に向け、また、住民ニーズに応える独自事業を推進し、皆様とともに、協働して様々な地域福祉活動に取り組むため、その財源の一つとなる社協賛助会費の納入についてご協力をお願いしています。

## 社協賛助会費の実績は？

総額・世帯ともにピーク時より約3割減となっています。



『企業×ふくし～企業向け出前福祉講座プログラム集～』 令和7年7月編集

社会福祉法人 茅野市社会福祉協議会

〒391-0002 長野県茅野市塚原2丁目5番地45号 茅野市ひと・まちプラザ2階

TEL:0266-73-4431 FAX:0266-73-8030

E mail:support@sharara.or.jp

<https://www.sharara.or.jp>